



年 組 名前

道新 ワークシート

A

使い救助活動

登別消防 実践積む

登別消防が力を入れるドローン。市内で7月末に行われた総合防災訓練では状況把握の一翼を担った



道内では、札幌市消防局や恵庭市消防本部がドローンを導入しており、西胆振では登別消防のみ。登別では、山菜採りシーズンにしばしば遭難事故が発生することもあり、ドローンの能力が欠かせないと考えた。現在は3機あり、価格は1機当たり約50万円。大きさは縦横30センチ前後、高さ8

メートルと小型だが、カメラや衛星利用測位システム（GPS）を搭載し、条件が良ければ30分間飛ぶことができる。最高時速72キロ、氷点下10度でも飛行可能だ。2018年度の導入以降、17回出動した。21年度は最多の7回で、うち6回は山中の転落事故現場に向

【登別】市消防本部が、ドローン（小型無人機）を活用した救助活動に力を入れている。山中での遭難などで、広範囲を素早く捜索できる利点があるからだ。今後は捜索に限らず、人が近づけない大規模災害時の被害状況の把握などにも生かしていきたい考えで、担当者は「ドローンを生かして被害を最小限に抑えられよう備えたい」としている。（高木乃梨子）

山中遭難に出動 災害時も活用へ

かった。

山が木々に覆われることもあり、遭難事故で遭難者の発見に直接つながったことはないが、山岳救助隊の捜索と併せて運用することで、捜索する隊員を先回りして、安全を確保することにも役立てられる。

課題は、ドローンの操縦技術の向上だ。市独自の基準を設け、現在は17人が認証を受けて訓練を続けている。上空から俯瞰するだけでなく、木々が生い茂る山中での捜索も想定。障害物との接触を避ける難しい操縦も求められる。市消防署警備グループの山地敏幸救急主査は「風の影響を受けるので、臨機応変な操縦が必要」と話す。

ドローンには、温度を判別できる赤外線カメラのほか、浮具を積載できる装置などもある。今後は土砂災害や水難救助、山火事などへの活用も想定される。7月末に実施した土砂災害を想定した総合防災訓練では、被害状況の把握のために使用した。山地主査は「操縦の熟練度を高めてあらゆる現場に備えたい」と話していた。

2022年8月19日（金）朝刊 地方（室蘭・胆振）版 16ページ（記事は再編集しています）

①見出しの空欄Aにあてはまる言葉を記事の中から四文字で書き抜きなさい。

②登別消防に導入されているドローンの特徴について、まとめた表の空欄部分を埋めなさい。

| 観点 | 特徴 |
|-----------|---|
| 価格（一機当たり） | |
| | 縦横30センチ前後 |
| | 8.4センチ |
| 最高速度 | |
| その他 | <ul style="list-style-type: none"> カメラや衛星利用測位システム（GPS）を搭載している。 条件が良ければ30分間飛ぶことができる。 氷点下10度でも飛行可能 |

③登別消防のドローンの説明として適切でないものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 遭難事故で遭難者の発見に直接つながったことはない。
 イ 2018年度の導入以降、17回出動した。
 ウ 山菜採りシーズンにしばしば遭難事故が発生する。
 エ 土砂災害を想定した総合防災訓練では、被害状況の把握のために使用した。